

ご挨拶

富山県では、県民あげて、ふるさと教育を推進しており、特に富山ゆかりの「ふるさと文学」は、故郷の自然や歴史・文化などの理解を深めるうえで大切な財産となっています。

『万葉集』を編集したとされる大伴家持は、越中で過ごした5年間に歌人として大きく飛躍し、223首の自らの歌を含む、越中万葉と呼ばれる337首の歌群を残しました。以来、富山県民は、『万葉集』に親しみ、家持を敬慕し、県内には120ものゆかりの歌碑等が建てられています。

このたびの「越中万葉歌碑まっぷ」の発刊をきっかけに、1,300年の時を超えて、家持が愛したふるさと富山への誇りや愛着が一層深まることを期待しています。

富山県知事 石井 隆一

越中万葉 おすすめコースめぐり



震気楼歌碑めぐりコース 計1時間45分(105分)

電鉄新魚津駅 18分 | しんきろうロード「なつかしの灯台塚」広場 12分 | 海の駅置気楼 59分
 → 埋没林博物館 11分 | 諏訪神社 9分 | 米種動の米蔵 24分 | 魚津水族館右横 25分
 → 大町小学校(魚津城址) 4分 | 電鉄魚津駅



呉羽山麓沢散歩コース 計2時間(120分)

JR西富山駅 21分 | 七面堂 7分 | 木俣修の歌碑 13分 | 県道富山高岡線「茶屋町」交差点歌碑 13分
 → 呉羽山旧天文台入口歌碑・小又幸井歌碑 2分
 → 呉羽山公園(高崎正秀の歌碑・大正天皇詩碑・昭和天皇歌碑) 2分 | 呉羽山展望台・佐伯有頼像 12分
 → 長慶寺・五百羅漢・山田孝雄の墓 49分 | 筆塚・人丸塚 59分 | 富山市民俗民芸村(佐々成政制髪址) 59分
 → 佐伯利重の碑 3分 | 八幡社 30分 | JR西富山駅



礪波山歌碑巡りコース 計2時間35分(155分)

俱利伽羅源平の郷 18分 | 石坂の地蔵堂 25分 | 礪波の関 59分 | 萬葉植物園 20分
 → 源氏ヶ峯 12分 | 猿ヶ馬場の万葉歌碑 15分 | 手向神社・俱利伽羅不動寺 25分
 → 峠茶屋跡 31分 | 若宮古墳 49分 | 俱利伽羅源平の郷

氷見エリア拡大マップ



氷見欲張り歌碑巡りコース グリーンコース 計2時間50分(170分)

JR氷見駅 10分 | 湊川中橋 10分 | 道の駅氷見海鮮館 34分
 → 阿尾栴葉乎布神社参道口 4分 | 阿尾城 2分 | 加納八幡宮 16分
 → 上庄川左岸排水機場 12分 | 県立有磯高校 23分 | 氷見市立博物館 9分 | JR氷見駅

氷見つまみくい歌碑巡りコース1 オレンジコース 計1時間20分(80分)

JR氷見駅 10分 | 湊川中橋 10分 | 道の駅氷見海鮮館 16分 →
 → 上庄川左岸排水機場 12分 | 県立有磯高校 23分 | 氷見市立博物館 9分 | JR氷見駅

氷見つまみくい歌碑巡りコース2 オレンジ+グリーン緩急コース 計1時間48分(108分)

JR氷見駅 10分 | 湊川中橋 10分 | 道の駅氷見海鮮館 16分 | 上庄川左岸排水機場 20分
 → 加納八幡宮 20分 | 県立有磯高校 23分 | 氷見市立博物館 9分 | JR氷見駅



越中万葉基礎知識

大伴家持が編さんしたとされる『万葉集』

奈良時代後半に編まれたとみられる。現存している最古の和歌集です。天皇や貴族はもちろん下級官人から防人までいろいろな身分の人々の歌が全20巻4516首収められています。大伴家持(?-785)が最終的な編集に大きな役割を果たしました。

この頃、まだ仮名文字がなく、漢字の音や訓を使って表わしており、万葉仮名とよばれています。

越中万葉337首 畿外では最多

大伴家持が国守として越中に赴任し(天平18年(746))、都へ戻る(天平勝宝3年(751))までの5年間に記録された330首が巻17から巻19にあり、巻16の「能登国の歌」3首と「越中国の歌」4首とあわせて、337首を「越中万葉」といいます。家持の頃は、石川県能登地方は越中国の一部であり、越中万葉に数えています。

家持は越中の5年間で223首

家持は、万葉集に473首の歌を残しており、これは万葉集の歌の約1割にあたります。また、そのうち223首は越中に在任した5年間の作品です。

家持は、越中で立山、二上山、布勢の水海などの雄大で美しくかつ厳しくもある景色に触れ、四季折々に思いを深めました。越中の風土が、家持の歌境を深め、彼を歌人として大きく成長させました。

～ひと目で知る 越中万葉～

- 万葉集全20巻4516首のうち、大伴家持は最多の473首を記録
- 越中万葉とは、万葉集に記録された越中国に関する歌337首
- 越中万葉全337首のうち、家持が国守として越中に赴任していた5年間に詠んだ歌は223首
- 県内の万葉歌碑は106件(刻まれた歌は86首)
- 万葉歌碑以外に、越中万葉記念碑10件、万葉秀歌を刻んだ橋の欄干4件があり、合計120件が存在

- 【歌碑にされた歌トップ3】**
- 1位 巻19-4143ものぶの 八十娘子が 汲みまがふ 寺井の上の 堅香子の花(6碑)
 - 2位 巻17-3987 玉くしげ 二上山に 鳴く鳥の 声の恋しき 時は来にけり(5碑)
 - 3位 巻17-4021 雄神河 紅にほふ 娘子し 葦附探ると 瀬に立たすらし 第19-4139 春の苑 紅にほふ 桃の花 下照る道に 出で立つ娘子 第19-4159 磯の上の 都万麻を見れば 根を延へて 年深からし 神さびにけり 第19-4249 石瀬野に 秋萩のぎ 馬並めて 初鷹狩にたに せずや別れむ(4碑)

県内の万葉歌碑及び記念碑

富山県内の大伴家持と「万葉集」ゆかりの地は、古くから多くの歌人・俳人が訪れて歌を詠み、また人々に親しまれてきました。そして、そこにはたくさんのお歌碑が建立されてきました。

現在、県内には万葉集歌を刻んだ歌碑が106件もあります。また、記念碑として万葉故地を示す石碑や家持の顕彰碑など10件、万葉秀歌を刻んだ橋の欄干4件や説明パネルなども数多く設置されています。



歌碑や記念碑を書いた方



歌碑や記念碑を書いた方には、著名な書家である金井之基や巖谷修、上原欣堂、青柳石城などがいます。また、著名な国語学者・国文学者、山田孝雄、佐佐木信綱、尾山篤二郎、犬養孝、中西進によるものもあります。さらに、古い時代に建てられたものの中には、幕末の公卿で歌人でもあった千種有功や本居宣長の曾孫にあたる国学者・本居豊頼といった名前もみられます。

家持の出挙巡行



越中万葉特有の歌ことばなど



歌に詠まれた富山の地名

